

安心安全な克雪体制づくり 取組事例集



令和4年3月

国土交通省 国土政策局 地方振興課

※この事例集は「令和3年度 雪処理の担い手の確保・育成のための克雪体制支援調査」に取り組まれた8地域の活動を紹介したものです。

掲載事例一覧

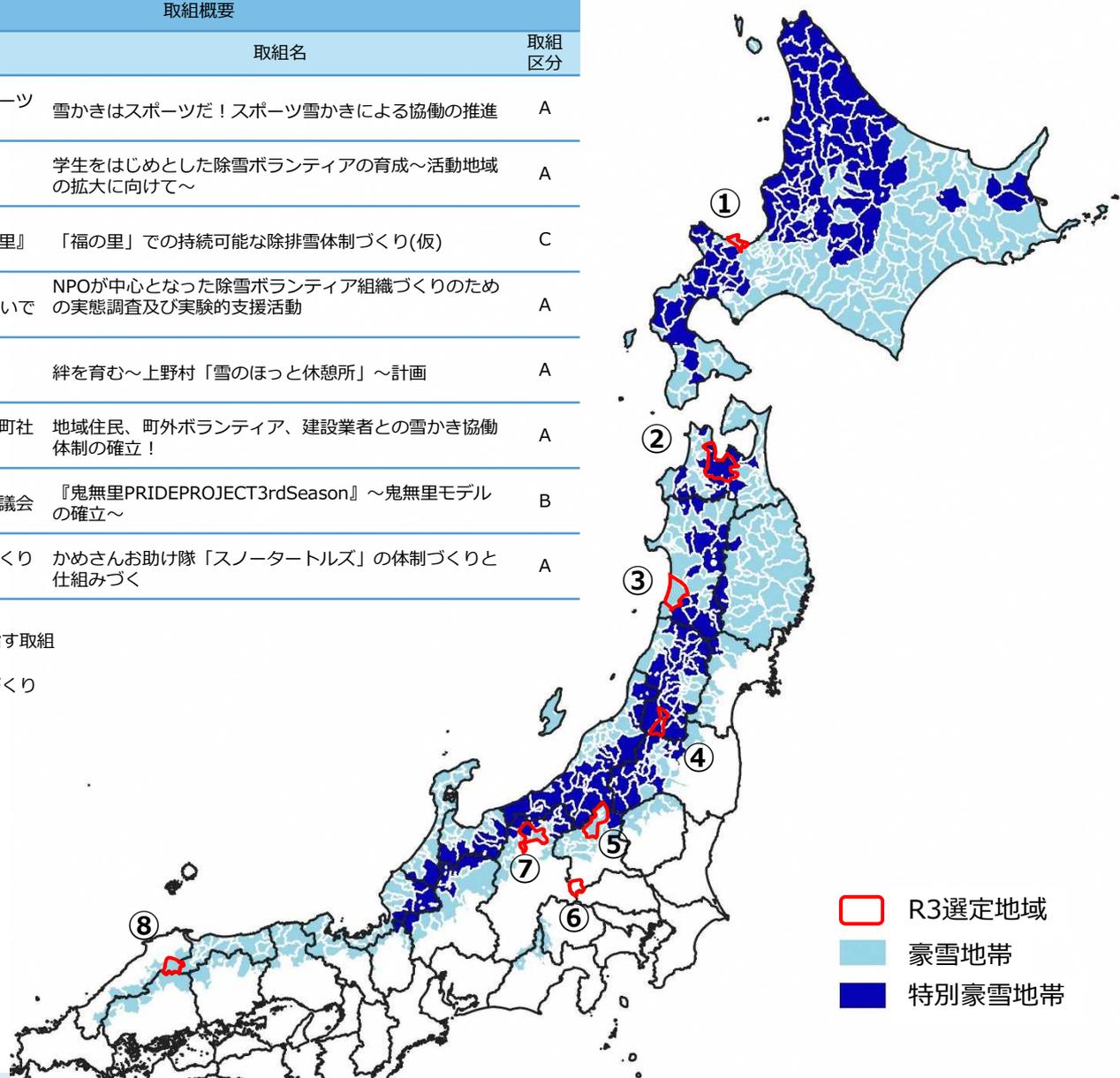
NO	活動地域	事例名	ポイント
1	北海道 小樽市	雪かきはスポーツだ！ スポーツ雪かきによる協働の推進	<ul style="list-style-type: none">● 雪かきの担い手不足を解消することを目的に、雪かきに「ソーシャルスポーツ」の概念を掛け合わせ、チーム同士が競い合える「スポーツ雪かき」を考案。コロナ禍においてリモート開催も実現。● 地元中学生や地域内外の大学生などの新しい担い手を発掘・確保・組織化し、「スポーツ雪かき」の運営を通して、自力での雪かきが困難な高齢者の支援拡充を目指す。
2	青森県 青森市	学生をはじめとした除雪ボランティアの育成 ～活動地域の拡大に向けて～	<ul style="list-style-type: none">● 冬期における歩行者空間の確保等の雪処理において、地域団体が核となり、学校、企業・団体（地元・県外）などが連携する除雪ボランティアの実施体制が、市全域で構築されることを目指す。● 市内高校の運動部と連携した除雪ボランティア実施事例を蓄積。
3	山形県 鶴岡市	「福の里」での持続可能な除排雪体制づくり	<ul style="list-style-type: none">● 地区内自治組織及び産業団体などで組織された協議会が主体となり、地域内除排雪の体制づくりを行う。● 人口減少・高齢化が進むことによる将来的な雪処理の担い手の減少に備え、除排雪困難世帯をリストアップする一方、講習会等の開催により地域内ボランティア登録者を確保した。
4	山形県 飯豊町	NPOが中心となった 除雪ボランティア組織づくりのための 実態調査及び実験的支援活動	<ul style="list-style-type: none">● 地域の課題解決の担い手として設立されたNPO法人が、除排雪困難世帯の実態調査から担い手の育成、除排雪活動の実践まで、有償除雪ボランティアを基本とした一連のスキームを組み立てる。● 有償ボランティアと除排雪困難世帯とのつなぎ役として、NPO法人の役割を確立。
5	群馬県 上野村	絆を育む ～上野村「雪のほっと休憩所」～計画	<ul style="list-style-type: none">● 除排雪困難世帯の玄関先を「雪のほっと休憩所」として位置付けることで、支援者-被支援者のお互いの心理的なハードルを下げる。● 今後の地域内共助の担い手として期待されるIターン者等と在来住民どうしのコミュニケーションのきっかけの場としても機能する。
6	群馬県 みなかみ町	地域住民、町外ボランティア、建設業者との 雪かき協働体制の確立！	<ul style="list-style-type: none">● 関連する団体、事業者等による対策会議を設置し、除排雪支援の必要性を共有。● 屋根雪下ろしの希望世帯が増加することを受け、屋根雪下ろしの地域内の担い手である地元業者の負担軽減に向けた方策を検討。
7	長野県 長野市	『鬼無里PRIDEPROJECT3rdSeason』 ～鬼無里モデルの確立～	<ul style="list-style-type: none">● 安全対策の必要性を訴えるPR動画を制作し、ローカルテレビ情報番組で放映。● アンカー設置宅を増やすべく、地区内へ「鬼無里モデルアンカー」の周知、地域住民が安全帯やヘルメットなどの備品を利用しやすくする仕組みづくりを行う（女性限定除雪機デビュー講座・アンカー見学ツアー等）。
8	島根県 奥出雲町	かめさんお助け隊「スノータートルズ」の 体制づくりと仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none">● 地域内の共助の機運を高めていくため、令和3年度より「かめさんお助け隊」を結成し、地域内の困りごとを解決する体制づくりを進める。● 「かめさんお助け隊」の取り組みを克雪をはじめ豪雨災害などから住民を守る活動へつなげる。

掲載事例の活動地域

自治体概要				取組概要		
NO	道府県	市町村	地域指定状況	申請者名	取組名	取組区分
①	北海道	小樽市	豪雪	一般社団法人日本スポーツ雪かき連盟	雪かきはスポーツだ！スポーツ雪かきによる協働の推進	A
②	青森県	青森市	特別豪雪	青森市	学生をはじめとした除雪ボランティアの育成～活動地域の拡大に向けて～	A
③	山形県	鶴岡市	豪雪	福栄地域協議会『福の里』	「福の里」での持続可能な除排雪体制づくり(仮)	C
④	山形県	飯豊町	特別豪雪	NPO法人まちづくりいいで	NPOが中心となった除雪ボランティア組織づくりのための実態調査及び実験的支援活動	A
⑤	群馬県	上野村	-	群馬県上野村	絆を育む～上野村「雪のほっと休憩所」～計画	A
⑥	群馬県	みなかみ町	豪雪	社会福祉法人みなかみ町社会福祉協議会	地域住民、町外ボランティア、建設業者との雪かき協働体制の確立！	A
⑦	長野県	長野市	一部特豪	鬼無里地区住民自治協議会	『鬼無里PRIDEPROJECT3rdSeason』～鬼無里モデルの確立～	B
⑧	島根県	奥出雲町	豪雪	亀嵩地区小さな拠点づくり委員会	かめさんお助け隊「スノータートルズ」の体制づくりと仕組みつく	A

※取組区分

- A：除排雪活動を行うことにより地域コミュニティカの向上を目指す取組
- B：共助による除排雪体制における安全対策の強化に向けた取組
- C：担い手の受け入れ組織の整備等による広域的共助除排雪体制づくり



- R3選定地域
- 豪雪地帯
- 特別豪雪地帯

事例 1

雪かきはスポーツだ! スポーツ雪かきによる協働の推進

除雪状況	必ず大雪	ほぼ大雪	たまに大雪	まれに大雪
除雪場所	歩道	間口	住宅周り	屋根
除雪の役割	日常的な除排雪		日常を補完する除排雪	
担い手	地区住民	学生・企業	周辺地域	広域
活動内容	共助除雪	安全講習	会議・会合	シンポジウム
	資器材整備	調査	人材確保	組織づくり

実施主体

一般社団法人日本スポーツ雪かき連盟

[活動地域：北海道小樽市]

自治体

北海道 小樽市

人口	111,422人	(増減率：- 8.6%)	※1
世帯数	52,704世帯	(増減率：- 5.0%)	※1
高齢化率	41.2%	(増減率：+4.3%)	
降雪率	430cm	(冬期間累計)	※2

※1令和2年国勢調査、増減率 = (R2の値-H27の値)
※2最寄りの観測所の1991~2020年の平均値

きっかけ

- 急な坂や狭い路地が多い住宅街で自力での雪かきが困難な高齢者が年々増え続け、また、増加する空き家前の雪かきが滞ることによる住民の生活路の遮断など、高齢者の雪かき支援や生活路の確保に必要な雪かきの担い手不足が年々深刻化しており、高齢者を支援する共助体制が崩れつつある。
- スポーツ雪かきにより高齢者の支援拡充と地域コミュニティの再構築を目的とした事業として確立し、小樽市雪対策基本計画（令和2年12月策定）にも事例として掲載されている。

取組内容

- 地域及び他の豪雪地域への普及を目指し、大学生スタッフを自立した組織に育成することで、年複数回の「スポーツ雪かき」の実施し、現地開催及び別日リモート開催を実施し、小樽内外からの参加者を集めて実施する。
- 競技用の技術開発として、手袋とセンサーを一体化したグローブ開発を行い、スコップですくった雪の重量と測定値の再現性を検証する。
- 市内関係団体と連携し、スポーツ雪かき参加者を雪かきの担い手として活動してもらう仕組みづくりを強化する。

主な成果

- 大会の準備・運営から担い手の育成までを実行できる大学生スタッフ主体の組織化に着手
- リモートスポーツ雪かき選手権、第9回国際スポーツ雪かき選手権（現地開催）を実施し、初めて複数回の開催を実現。
- 競技用の技術開発として手袋とセンサーを一体化したグローブ改良版を開発。

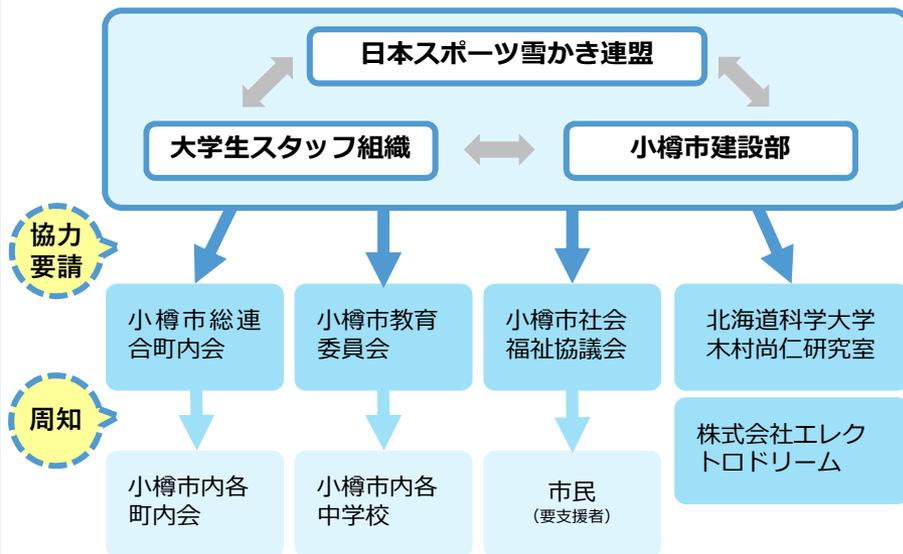
他団体・他地域で参考になりそうなポイント

- 大学生が媒介となり地域内連携が構築され、地域振興にも寄与していること。
- 行政や社協と連携し地域福祉計画や雪対策基本計画の推進に貢献。

活動のポイント

- 雪かきの担い手不足を解消することを目的に、雪かきに「ソーシャルスポーツ」の概念を掛け合わせ、チーム同士が競い合える「スポーツ雪かき」を考案。コロナ禍においてリモート開催も実現。
- 地元中学生や地域内外の大学生などの新しい担い手を発掘・確保・組織化し、「スポーツ雪かき」の運営を通して、自力での雪かきが困難な高齢者の支援拡充を目指す。

運営体制



大学生スタッフを中心となり大会を企画運営

学生をはじめとした除雪ボランティアの育成～活動地域の拡大に向けて～

除雪状況	必ず大雪	ほぼ大雪	たまに大雪	まれに大雪
除雪場所	歩道	間口	住宅周り	屋根
除雪の役割	日常的な除排雪		日常を補完する除排雪	
担い手	地区住民	学生・企業	周辺地域	広域
活動内容	共助除雪	安全講習	会議・会合	シンポジウム
	資器材整備	調査	人材確保	組織づくり

実施主体

青森県青森市

[活動地域：青森県青森市]

自治体

青森県 青森市

人口	275,340人	(増減率：-4.3%)	※1
世帯数	118,293世帯	(増減率：±0%)	※1
高齢化率	35.8%	(増減：+8.3%)	
降雪率	476cm	(冬期間累計)	※2

※1令和2年国勢調査、増減率 = (R2の値-H27の値)
※2最寄りの観測所の1991～2020年の平均値

きっかけ

- 歩道を含めた市道の除排雪を行っているが、除排雪延長が長く、狭い生活道路などにおいては、歩道の通行が困難となり歩行者が車道を通行せざるを得ない場合がある。また、全国平均を上回るペースで人口減少及び高齢化が進展しており、地域住民だけで活動を継続することが困難になってきている。
- 地域における持続可能な除排雪体制を維持するために、地域内外から幅広く除雪ボランティアを受け入れる必要があり、地域住民の除雪要望と除雪ボランティアの活動要望を吸い上げ、調整する役割が必要となってくる。

取組内容

- 除雪ボランティアと地域団体を結びつける人材を育成するため、「除雪ボランティアリーダー育成研修」を実施する。
- 広域での除雪ボランティア活動の展開を目指し、活動地域の横展開を図るため、活動を希望する除雪ボランティアと受け入れを希望する地域団体のマッチングを行う。
- 県外からの除雪ボランティア受け入れの仕組みを構築するため、県外からの除雪ボランティアの受入を試行的に実施する。

主な成果

- 除雪ボランティアと地域団体を結びつける人材として、地区町会長を除雪ボランティアリーダーとして育成した。
- 地元高校の運動部と連携した活動体制を構築し、除雪ボランティア活動を展開した。
- 県外からの除雪ボランティアの受入を実施し、リモートワーク下における除雪ボランティアの受入を実施した。

他団体・他地域で参考になりそうなポイント

- 地域団体（町内会）が核となって、学生等の若い力を取り入れながら、企業・団体と連携する除雪ボランティアの実施体制。

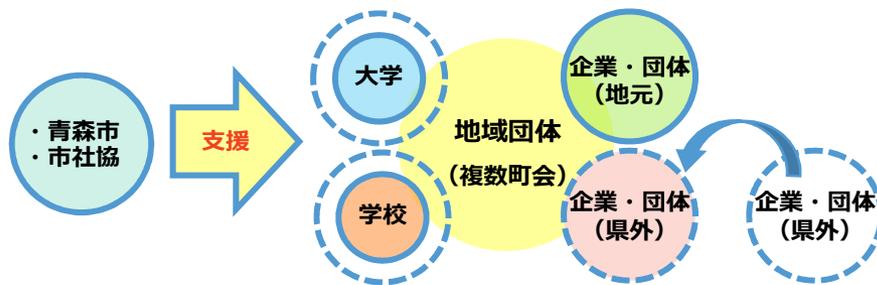
活動のポイント

- 冬期における歩行者空間の確保等の雪処理において、地域団体が核となり、学校、企業・団体（地元・県外）などが連携する除雪ボランティアの実施体制が、市全域で構築されることを目指す。
- 市内高校の運動部と連携した除雪ボランティア実施事例を蓄積。

運営体制

名称	役割
地元町内会等	各団体との意見調整、活動計画策定、組織運営
協力法人・団体	除雪ボランティアの募集、除雪用具の提供
大学	大学内における学生ボランティアの募集
青森県	歩道除雪作業に併せた道路除雪の実施
青森市・青森市ボランティアセンター（市社協）	歩道除雪作業に併せた道路除雪の実施、除雪用具の貸与、除雪ボランティアの募集・育成

除雪ボランティア実施体制イメージ



地域団体と地元高校生たちによる除雪ボランティア活動

活動時に着用するビブス

「福の里」での持続可能な除排雪体制づくり

除雪状況	必ず大雪	ほぼ大雪	たまに大雪	まれに大雪
除雪場所	歩道	間口	住宅周り	屋根
除雪の役割	日常的な除排雪		日常を補完する除排雪	
担い手	地区住民	学生・企業	周辺地域	広域
活動内容	共助除雪	安全講習	会議・会合	シンポジウム
	資器材整備	調査	人材確保	組織づくり

実施主体

福栄地域協議会「福の里」

[活動地域：山形県鶴岡市]

自治体

山形県
鶴岡市

人口	122,454人	(増減率：- 5.6%)	※1
世帯数	45,780世帯	(増減率：+1.0%)	※1
高齢化率	31.2%	(増減率：+1.5%)	
降雪率	442cm	(冬期間累計)	※2

※1令和2年国勢調査、増減率 = (R2の値-H27の値)
※2最寄りの観測所の1991~2020年の平均値

きっかけ

- 人口減少・高齢化が進む福栄地区の現状において、地域住民だけで除排雪体制を維持していくのは困難であり、十分な対策を講じない限り、人口流出が更に加速する可能性がある。
- 地域内共助による除排雪体制が維持させつつ、将来的な雪処理の担い手の減少に備え、地域外ボランティア等除雪サポーターを登録、育成し、組織化につなげることで、将来に向けた除排雪体制を確立する。

取組内容

- 地区内自治組織及び産業団体などで組織された「福栄地域協議会『福の里』」が主体となり、地域の除排雪を行う体制づくりを行う。
- 地域在住の若者や地域を離れたものの地域への思いを抱いている出身者の方々の他、地域外の地域貢献に価値を見出している人、ボランティアとして既に活躍している人達をメンバーとして登録し、除排雪の基礎から学ぶ研究会や体験会を通し、除排雪人材の育成・レベルアップ、そして組織化を図る。

主な成果

- 12名の地域内除雪ボランティアを登録した。
- 一方、除排雪困難世帯及び今後困難になると予想される世帯については、42世帯をリストアップした。
- 上記の除雪ボランティアと除排雪困難世帯とのマッチングを行い、地域内共助を試行的に実施し、今後の課題を収集した。

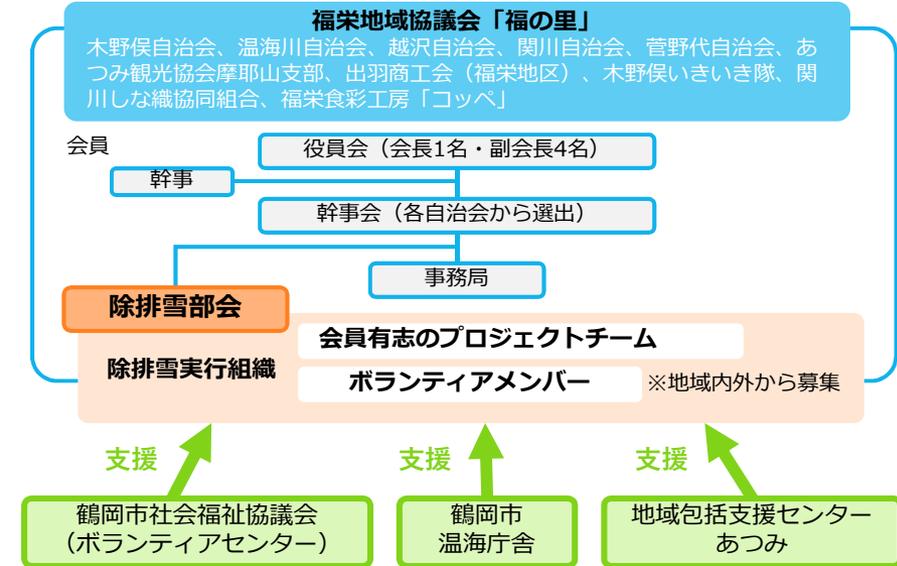
他団体・他地域で参考になりそうなポイント

- 地区内自治組織及び産業団体など多様な主体で組織された協議会が主体となることで、幅広い担い手からなる地域内除排雪の体制づくりができる。

活動のポイント

- 地区内自治組織及び産業団体などで組織された協議会が主体となり、地域内除排雪の体制づくりを行う。
- 人口減少・高齢化が進むことによる将来的な雪処理の担い手の減少に備え、除排雪困難世帯をリストアップする一方、講習会等の開催により地域内ボランティア登録者を確保する。

運営体制



除排雪活動の様子

事例 4

NPOが中心となった除雪ボランティア組織 づくりのための実態調査及び実験的支援活動

除雪状況	必ず大雪	ほぼ大雪	たまに大雪	まれに大雪
除雪場所	歩道	間口	住宅周り	屋根
除雪の役割	日常的な除排雪		日常を補完する除排雪	
担い手	地区住民	学生・企業	周辺地域	広域
活動内容	共助除雪	安全講習	会議・会合	シンポジウム
	資器材整備	調査	人材確保	組織づくり

実施主体

NPO法人まちづくりいいで

[活動地域：山形県飯豊町]

自治体

山形県 飯豊町

人口	6,615人	(増減率：-9.4%)	※1
世帯数	2,125世帯	(増減率：-0.0%)	※1
高齢化率	38.8%	(増減率：+4.0%)	
降雪率	604cm	(冬期間累計)	※2

※1令和2年国勢調査、増減率 = (R2の値-H27の値)
※2最寄りの観測所の1991~2020年の平均値

きっかけ

- 町の高齢化に伴い、個人宅の間口除雪も困難な状況になっているため、行政が間口除雪や屋根の雪下ろし支援などに補助金を設けているものの、担い手不足が原因で対応の遅れなどがあり苦慮している。
- 令和2年度は、NPO法人が運営主体となり、特に高齢者のみの世帯を中心に、実態調査を行い、除雪困難世帯の実状について把握し、除排雪体制の仕組みを定着させることを狙い、除排雪等の内容や基準の取り決めを行った。

取組内容

- 地区自治会、民生委員等の関係団体と連携し、調査委員会を組織しNPO法人が事務局を担いアンケート等の調査を実施し、「除雪カルテ」として整理した上、調査委員会は行政・民生委員・自治会等と協議を行い、支援の内容・報酬等について整理する。
- 地域内での有償ボランティアの担い手の確保を目的とし、除雪ボランティア活動を試行的に実施する。

主な成果

- 高齢者世帯の除排雪を請け負う仕組みづくりに向けた調査活動を実施し、有償ボランティアの担い手を確保できた。
- 持続可能な支援組織体制づくりに向け、NPO法人の活動として、高齢者世帯の除排雪支援を活動の柱とする見通しを立てることができた。

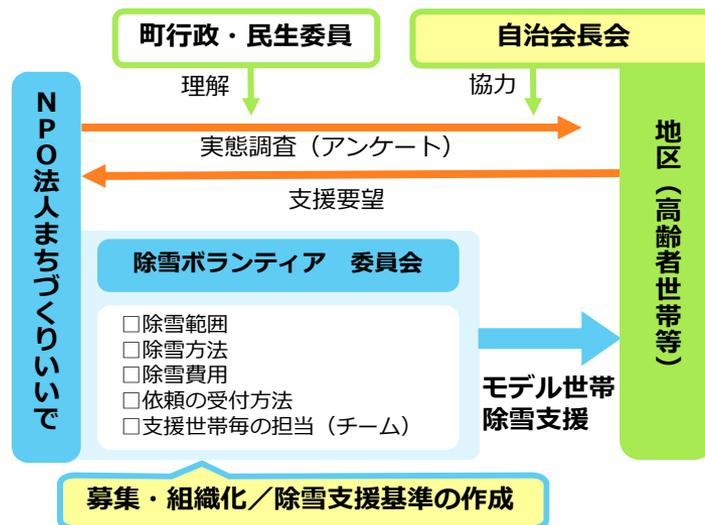
他団体・他地域で参考になりそうなポイント

- NPO法人という枠組みとして、会員同士の支えあいを行う仕組みをつくることで、通年した有償ボランティアによる生活支援が可能となる。

活動のポイント

- 地域の課題解決の担い手として設立されたNPO法人が、除排雪困難世帯の実態調査から担い手の育成、除排雪活動の実践まで、有償除雪ボランティアを基本とした一連のスキームを組み立てる。
- 有償ボランティアと除排雪困難世帯とのつなぎ役として、NPO法人の役割を確立。

運営体制



アンケート調査の様子



除排雪作業の様子

絆を育む～上野村 「雪のほっと休憩所」～計画

除雪状況	必ず大雪	ほぼ大雪	たまに大雪	まれに大雪
除雪場所	歩道	間口	住宅周り	屋根
除雪の役割	日常的な除排雪		日常を補完する除排雪	
担い手	地区住民	学生・企業	周辺地域	広域
活動内容	共助除雪	安全講習	会議・会合	シンポジウム
	資器材整備	調査	人材確保	組織づくり

実施主体

群馬県上野村

[活動地域：群馬県上野村]

自治体

群馬県 上野村

人口	1,128人	(増減率：- 8.3%)	※1
世帯数	552世帯	(増減率：- 4.5%)	※1
高齢化率	45.9%	(増減率：+0.9%)	
降雪率	最寄りの観測所無しのため不明		※2

※1令和2年国勢調査、増減率 = (R2の値-H27の値)
※2最寄りの観測所の1991～2020年の平均値

きっかけ

- 急峻な山岳地帯にある集落では、平坦地が少なく高齢者による除雪作業は困難となってきている。
- 地域内共助が伝統的に盛んであったことが背景として、被支援者が支援を受けることに抵抗感があり、支援者と被支援者のマッチングが困難。
- 村民の2割強がIターン者であり、Iターン者の地域との繋がりが希薄。

取組内容

- 関連団体によるプロジェクトチームを発足した上で、共助活動への参加が困難となった高齢者たちの玄関に「雪のほっと休憩所」を設けてもらい、除雪参加の新しいチャンネルを創出する。
- 除雪に「支え手」・「受け手」という関係を作らない。村民各々の事情に寄り添い「支え手」・「支え手」という関係性をつくる。

主な成果

- 高齢者宅の個別訪問を行い支援が必要な世帯のスクリーニングを行い、「雪のほっと休憩所」を59箇所設けた。
- 今後の地域内共助の担い手として期待されるIターン者等と在来住民どうしのコミュニケーションのきっかけの場をつくることができた。

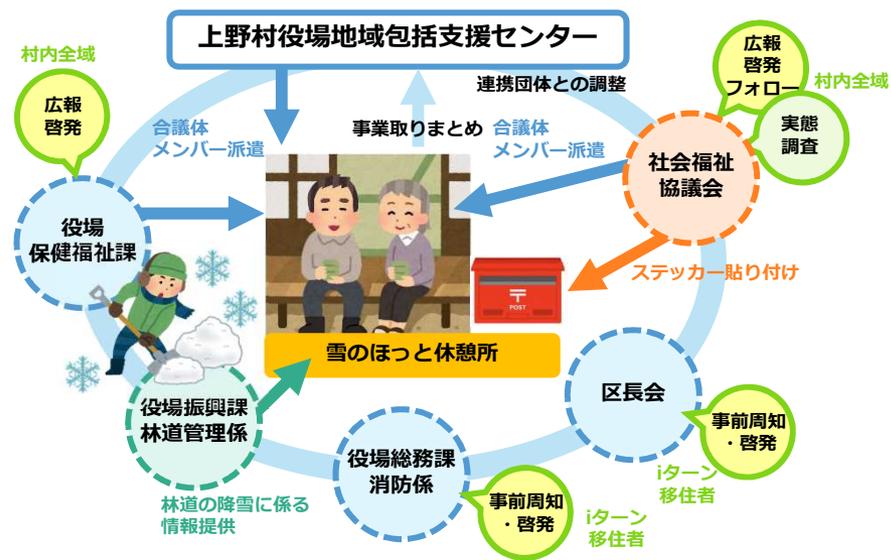
他団体・他地域で参考になりそうなポイント

- 「雪のほっと休憩所」が地域内共助のハードルを下げるだけでなく、高齢者と若手との交流をつくる、よりどころとしても機能すること。

活動のポイント

- 除排雪困難世帯の玄関先を「雪のほっと休憩所」として位置付けることで、支援者-被支援者のお互いの心理的なハードルを下げる。
- 今後の地域内共助の担い手として期待されるIターン者等と在来住民どうしのコミュニケーションのきっかけの場としても機能する。

運営体制



社協職員による対面式のスクリーニング調査



「雪のほっと休憩所」ステッカー



除雪活動の様子

地域住民、町外ボランティア、建設業者との雪かき共同体制の確立！

除雪状況	必ず大雪	ほぼ大雪	たまに大雪	まれに大雪
除雪場所	歩道	間口	住宅周り	屋根
除雪の役割	日常的な除排雪		日常を補完する除排雪	
担い手	地区住民	学生・企業	周辺地域	広域
活動内容	共助除雪	安全講習	会議・会合	シンポジウム
	資器材整備	調査	人材確保	組織づくり

実施主体

**社会福祉法人みなかみ町
社会福祉協議会** [活動地域：群馬県みなかみ町]

自治体

**群馬県
みなかみ町**

人口	17,233人	(増減率：- 10.9%)	※1
世帯数	6,972世帯	(増減率：- 8.2%)	※1
高齢化率	44.0%	(増減率：+ 7.2%)	
降雪率	718cm	(冬期間累計)	※2

※1令和2年国勢調査、増減率 = (R2の値-H27の値)
※2最寄りの観測所の1991～2020年の平均値

きっかけ

- 市町村合併により、平時では少雪のため大雪には脆弱な地区や平時から屋根雪下ろしが必要とされる地区が混在している。
- 地区ごとの気候や雪処理の文化の違いを考慮した上での、地域内共助の底上げが必要。
- 現状、町内にて多様な雪処理の取組があるが、役割分担が不明確で、組織間の連携がとれていない状況である。

取組内容

- 関連機関、事業者等で対策会議を設置し、地域内共助除排雪を集中的に検討する場を設ける。
- 除排雪困難世帯の把握、地域内の除雪ボランティアの募集し、担い手養成のために雪かき研修会を実施する。
- 屋根雪下ろしの地域内の担い手である地元業者の負担軽減に向けた方策を検討するため、地元業者による労働安全衛生法改正による墜落制止用器具などを含めた内容の講義を専門家を招聘し、関係者を中心に聴講する機会を設ける。

主な成果

- 町内の関係者との対策会議を開催し、当事業の推進を図ることができた。
- その成果として、町内の福祉セクションと防災セクションによる合同の町内巡回視察を実施するなど具体的な連携につながった。
- また、屋根雪下ろしにかかる費用助成の制度充実も実現した。

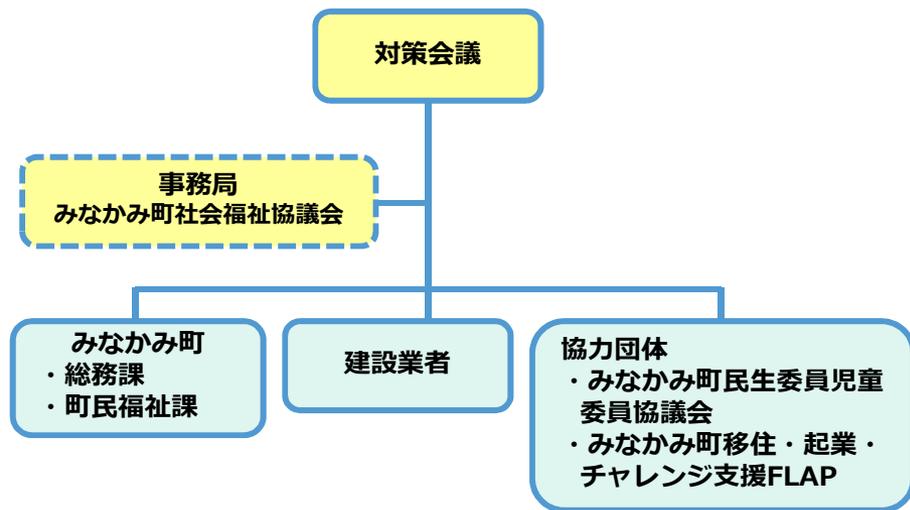
他団体・他地域で参考になりそうなポイント

- 地域社協が町内の関係団体との調整を図るハブ機能を担うことで、地域内共助を底上げするところ。

活動のポイント

- 地域内除排雪に関連する団体、事業者等による対策会議を設置し、除排雪支援の必要性を共有。
- 屋根雪下ろしの希望世帯が増加することを受け、屋根雪下ろしの地域内の担い手である地元業者の負担軽減に向けた方策を検討。

運営体制



対策会議メンバー等によるオンラインによる屋根雪下ろし講習会の受講



ボランティアセンターによる除雪ボランティア活動

鬼無里PRIDE PROJECT 3rd Season～鬼無里モデルの確立～

除雪状況	必ず大雪	ほぼ大雪	たまに大雪	まれに大雪
除雪場所	歩道	間口	住宅周り	屋根
除雪の役割	日常的な除排雪		日常を補完する除排雪	
担い手	地区住民	学生・企業	周辺地域	広域
活動内容	共助除雪	安全講習	会議・会合	シンポジウム
	資器材整備	調査	人材確保	組織づくり

実施主体

鬼無里地区住民自治協議会

[活動地域：長野県長野市]

自治体

長野県
長野市

人口	373,251人	(増減率：- 1.2%)	※1
世帯数	156,854世帯	(増減率：+ 4.3%)	※1
高齢化率	27.6%	(増減：- 1.1%)	
降雪率	530cm	(冬期間累計)	※2

※1令和2年国勢調査、増減率 = (R2の値-H27の値)
※2最寄りの観測所の1991～2020年の平均値

きっかけ

- 地区の高齢化により、屋根雪の除雪作業の事故が増加している。一方で、平成28年から担い手の育成と安全対策を目的として「雪かき道場」を開催し、地区外からの除雪ボランティアの育成や雪害救助員の安全対策、地元工務店と共同開発した鬼無里モデルのアンケートの開発等に取り組んできた。
- しかし、安全対策への地域住民の理解は底上げされてはきたが、アンカーの設置は少数世帯に留まっている。

取組内容

- 安全対策の必要性を訴えるPR動画を近隣地区と共同制作し、情報番組で放映する。
- アンカー設置宅を増やすべく、地区内へ鬼無里モデルアンカーの周知、地域住民が安全帯やヘルメットなどの備品を利用しやすくなる仕組みづくりを行う（女性限定除雪機デビュー講座・アンカー見学ツアー）。
- 地域内関係者に屋根雪下ろしの危険性や安全対策の必要性への理解を促す。

主な成果

- ローカルテレビで屋根雪下ろしの安全対策動画を番組として放送。
- 近隣地区においても、屋根雪下ろし安全講習会を開催。
- アンカー見学ツアーも開催し、地区住民にとって不透明だったアンカーが、より理解される良い機会となった。
- 行政職員なども除雪支援員の屋根雪下ろし作業に同行する機会を設け、アンカー設置に関わる補助金の重要性を訴えることができた。
- 屋根雪下ろし情報誌の発行（町内の瓦版）

他団体・他地域で参考になりそうなポイント

- 地域主導・地域発信による屋根雪下ろし安全対策のノウハウ（「鬼無里モデルアンカー」・「除雪住宅カルテ」・安全対策の啓発動画等）

活動のポイント

- 安全対策の必要性を訴えるPR動画を制作し、ローカルテレビ情報番組で放映。
- アンカー設置宅を増やすべく、地区内へ「鬼無里モデルアンカー」の周知、地域住民が安全帯やヘルメットなどの備品を利用しやすくなる仕組みづくりを行う（女性限定除雪機デビュー講座・アンカー見学ツアー等）。

運営体制

運営主体：鬼無里地区住民自治協議会

担当：雪かき道場実行委員会

(ワークショップ、講習会等の企画運営)

安全対策の見直し
普及啓発の計画立案
運営会議の開催

- ・安全マニュアルの点検
- ・安全講習会の開催
(アンカー設置WS)
- ・除雪住宅カルテの作成

◆支援協力

長野市役所
鬼無里支所
市社会福祉協議会

除排雪
困難世帯

- ◆鬼無里地区雪害救助員
(除雪担い手)
- ◆民生委員
(除排雪困難世帯の除雪依頼)



アンカー見学ツアーの開催



鬼無里モデルアンカーの開発

かめさんお助け隊「スノータートルズ」の体制づくりと仕組みづくり

除雪状況	必ず大雪	ほぼ大雪	たまに大雪	まれに大雪
除雪場所	歩道	間口	住宅周り	屋根
除雪の役割	日常的な除排雪		日常を補完する除排雪	
担い手	地区住民	学生・企業	周辺地域	広域
活動内容	共助除雪	安全講習	会議・会合	シンポジウム
	資器材整備	調査	人材確保	組織づくり

実施主体

亀高地区小さな拠点づくり委員会

[活動地域：島根県奥出雲町]

自治体

島根県
奥出雲町

人口	11,859人	(増減率：-9.2%)	※1
世帯数	4,347世帯	(増減率：-2.6%)	※1
高齢化率	44.1%	(増減：+3.2%)	
降雪率	364cm	(冬期間累計)	※2

※1令和2年国勢調査、増減率 = (R2の値-H27の値)
※2最寄りの観測所の1991～2020年の平均値

きっかけ

- 地域内の共助の機運を高めるため、「かめさんお助け隊」を結成し、高齢者や独居老人、老老世帯を対象に困りごとを解決する体制づくりを進めている。
- 試行的な取り組みとして、令和2年冬期に除雪支援を実施したところ、7件14回の除雪依頼があった。

取組内容

- 「かめさんお助け隊」の下部に位置する活動団体として、除排雪困難世帯を対象に間口除雪を行う除雪隊「スノータートルズ」を結成する。
- 先進地事例（赤名スノーヘルパー（島根県飯南町））を学ぶ研修会を開催し、除排雪体制や除排雪に対する心構え、利用者の声や現在の状況等を除雪ボランティア間で共有。
※「かめさんお助け隊」
通年を通じた地域内共助の取組。克雪をはじめ豪雨災害などから住民を守る活動へと今後展開予定。平時は除草作業と除排雪作業を行う。

主な成果

- 「スノータートルズ」の団体立ち上げ。
- 地区内の除雪ボランティアリーダーを1名育成できた。
- 地区内の除雪ボランティアとして29名登録できた。

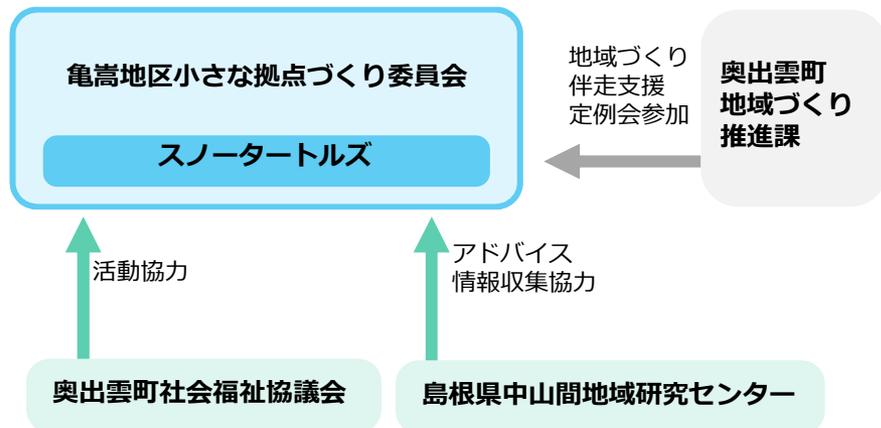
他団体・他地域で参考になりそうなポイント

- 西日本型の気候下における地域内共助組織の立ち上げ方に関するノウハウ

活動のポイント

- 地域内の共助の機運を高めるため、令和3年度より「かめさんお助け隊」を結成し、地域内の困りごとを解決する体制づくりを進める。
- 「かめさんお助け隊」の取り組みを克雪をはじめ豪雨災害などから住民を守る活動へつなげる。

運営体制



除排雪活動の様子



先進地事例を学ぶ研修会

各地区の基礎情報

NO	事例名	実施主体	実施地域	地方							人口規模 (*1)	地域・活動分類										活動開始年	連絡先 (電話番号)													
				降雪状況								除雪場所			除雪の役割		担い手		活動内容																	
				北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	未		1万人未満	1.5万人	3万人	5万人	10万人以上	必ず大雪	ほぼ大雪	まれに大雪	歩道	開口			住宅周り	屋根	日常的な除排雪	日常を補完する除排雪	地区住民	学生・企業	周辺地域	広域	共同除雪	安全講習	会議・会合	シンポジウム	資器材整備
事例①	雪かきはスポーツだ！スポーツ雪かきによる協働の推進	一般社団法人日本スポーツ雪かき連盟	北海道 小樽市	●								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	R2	一般社団法人日本スポーツ雪かき連盟 090-1702-6079
事例②	学生をはじめとした除雪ボランティアの育成～活動地域の拡大に向けて～	青森市	青森県 青森市	●								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	R1	青森市 017-752-8584	
事例③	「福の里」での持続可能な除排雪体制づくり	福栄地域協議会「福の里」	山形県 鶴岡市	●								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	R3	鶴岡市温病庁舎総務企画課 (福栄地域協議会「福の里」事務局) 0235-43-4611	
事例④	NPOが中心となった除雪ボランティア組織づくりのための実態調査及び実験的支援活動	NPO法人まちづくりいいで	山形県 飯豊町	●						●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	R2	NPO法人まちづくりいいで 0238-87-9950	
事例⑤	絆を育む～上野村「雪のほっと休憩所」～計画	群馬県上野村	群馬県 上野村	●						●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	R3	上野村地域包括支援センター 0274-59-2309	
事例⑥	地域住民、町外ボランティア、建設業者との雪かき協働体制の確立！	社会福祉法人みなかみ町社会福祉協議会	群馬県 みなかみ町	●						●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	R3	社会福祉法人みなかみ町社会福祉協議会 0278-62-0081	
事例⑦	『鬼無里PRIDE PROJECT 3rd Season』～鬼無里モデルの確立～	鬼無里地区住民自治協議会	長野県 長野市									●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	H28	鬼無里地区住民自治協議会 026-256-2214	
事例⑧	かめさんお助け隊「スノータートルズ」の体制づくりと仕組みづくり	亀嵩地区小さな拠点づくり委員会	鳥根県 奥出雲町							●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	R3	亀嵩地区小さな拠点づくり委員会 0854-57-0616	

*1 市町村合併前の旧市町村単位の人口規模を表す。